

「第11次北海道家畜改良増殖計画」に対する付帯意見（案）

北海道農業・農村振興審議会畜産部会 部会長 日向 貴久

- 1 家畜の改良に当たっては、中長期的な視点で実施していく必要があることから、道は、本計画に基づき、関係機関・団体と情報交換を十分に行うとともに、互いの役割を明確にし、本道全体の共通の目標として推進していくこと。
また、生産者はもとより関係機関・団体等においては、本計画の趣旨や内容を十分に理解し、道とも連携を図りながら、それぞれの役割と責任において、積極的な取組を進めること。
- 2 特に、乳用牛については、泌乳形質だけでなく、強健性に関わる体型形質や繁殖性などの改良により長命連産性を高めるとともに、暑熱耐性や飼料利用性など飼養環境に適した評価形質の導入に取り組むことで、経営体質の強化に寄与する家畜改良を推進すること。
- 3 また、肉用牛については、これまでの産肉能力に加え、食味等に関連する新たな価値観を取り入れた特色のある改良を進めるなど、経営体質の強化に寄与する家畜改良を推進すること。
- 4 道は、本計画に定めた取組の着実な実施と目標の達成に向けて、その推進状況や関係者による取組状況を把握するなど、進行管理を行い、その過程で明らかとなった課題や、経済・社会情勢の変化等を踏まえ、取組の必要な見直しや改善を行うこと。